

国選無形民俗文化財
鶴崎おどり保存会
創設100周年記念式典

●と き 令和6年6月9日(日) 午後3時～

●ところ 大分市鶴崎公民館



鶴崎おどりのブロンズ像（鶴崎駅前）

鶴崎おどり保存会

〒870-0103 大分市東鶴崎1-2-3

TEL 097-527-2111 FAX 097-521-7140

良子女王殿下（昭和天皇の皇后）の御台覧

鶴崎の誉れ

鶴崎踊りが大いに花と咲き、全国的に宣伝されその名声を博するようになったのは大正12年5月22日良子様の御一家が来県され、別府に御滞在の折、致楽荘で大分県民芸代表として鶴崎の人びとによる鶴崎踊りをご覧に入れ、それが大変御好評を得てからのことである。

— 中 略 —

名物の鶴崎踊りは盆の17日以降、三軒町を皮切りとして各町内輪番に催され、殊に来る22日は御台覧一周年日に当たるので、鶴崎小学校校庭で鶴崎踊り保存会の発会式を兼ね記念踊りを催すこととなった。踊りの季節に入ると共に、別府方面よりの観客が多数押しかけるので、駅長の手を経て三日間の臨時列車を申請した。



— 鶴崎踊り沿革史より —

良子妃殿下は大正13年1月16日 昭和天皇陛下とご成婚

さようなら「致楽荘」

良子女王殿下の御台覧という誉の慶事から80余年を経た平成18年10月9日、別府の致楽荘の土地を大阪の地主さんが手放すという情報を得て、保存会ではお別れの記念に鶴崎踊を是非にと別府へ出向いた。役員、囃し方、踊り子総勢36名。ご台覧の日は踊り子だけでも60名だったとあるので、致楽荘がいかに広大な敷地であったかがうかがわれる。

現地に着くと庭には雑草が生い茂り、当時はハイカラであったであろう門扉も赤く錆び、観光地別府の中にあって、そののみがピタッと歴史が止まっている光景であった。その庭では踊るすべもなく、私達は門の外の道路端の少しのスペースで生演奏で「猿丸太夫」を踊った。

太鼓の音も、口説きも、胡弓の弓も、三味の撥も、吹く笛も、踊り子のかざす手も……神妙の思いで別れを惜しんだ。



門扉錆び 雑草生ふる「致楽荘」 菊の縁の鶴崎踊り 〈河室 薫〉

次 第

1. 開式のことば

2. 100周年記念特別表彰

3. 会長あいさつ

4. 祝 辞

- | | |
|---------------|-----------|
| (1) 大 分 県 知 事 | 佐 藤 樹一郎 様 |
| (2) 大 分 市 長 | 足 立 信 也 様 |
| (3) 大分市議会議長 | 二 宮 博 様 |

5. 来 賓 紹 介

6. 祝 吟

「鶴 崎 踊」 淡窓伝光霊流 今 村 暉 霊

7. 閉式のことば

記 念 公 演（伝統芸能交流会）

- (1) 草 地 お ど り
- (2) 津 久 見 扇 子 踊 り
- (3) 関の鯛つりおどり
- (4) 鶴 崎 踊



ご あ い さ つ

鶴崎 おどり 保 存 会

会 長 安 部 泰 史

鶴崎おどり保存会創設 100 周年記念式典を開催するにあたり、保存会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当保存会は、大正 13 年 8 月 22 日に創設し、本年で 100 周年という記念すべき年を迎えることとなりました。これも偏に諸先輩方を始めとして皆様方の保存会に対するご厚情の賜であると衷心より敬意を表するところであります。

保存会創設のきっかけとなりましたのは、大正 12 年に久邇宮良子女王殿下くのみやながこの御一家がご来県の折、別府の致楽荘（和田豊治の別荘）において、大分県民芸を代表して鶴崎踊をご覧いただいた折に大変好評を得て以来、鶴崎踊が全国的に有名になり、翌年、町役場住民の総意で、鶴崎おどり保存会が創設され今日に至っております。

爾来、ご案内のとおり 460 有余年の歴史と伝統を持つ国選択無形民俗文化財鶴崎踊は、郷土大分県を代表する民俗芸能として、ここ鶴崎の風土と相まって綿々と受け継がれ、その優雅で格調高い踊りは、大分市民はもとより、大分県民に広く親しまれ育まれて今日の隆盛を迎えております。

こうした中で、時代とともに築き上げられてきたこの保存会を更に充実させるとともに、歴史と伝統に培われた鶴崎踊の保存継承に、なお一層努めていくことが我々に課せられた大きな使命だと痛感しております。

さて、今回の 100 周年の記念式典に大分県を代表する豊後高田市の「草地おどり」津久見市の「扇子踊り」大分市から「関の鯛つりおどり」をお招き致し、多くの市民の皆さんにご披露いたしたいと考えたところでありますので、存分にご堪能いただければ幸いです。

結びに、当保存会並びに鶴崎踊の発展のため、ご指導ご協力を賜りました関係各位に重ねて感謝申し上げますとともに、本年の本場鶴崎踊大会にも、是非ご家族お揃いでのご来場をご案内申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。



お祝いのことば

大 分 市 長

足 立 信 也

鶴崎おどり保存会の創設 100 周年を心からお祝い申し上げます。

鶴崎おどり保存会会員の皆様方には、鶴崎踊の伝統文化を継承し、その保存と発展の活動を通して、本市の地域文化の振興に多大なご貢献をいただいておりますことに、心から敬意と感謝の意を表します。

「鶴崎踊」は、1560 年頃、当時の豊後の国主大友宗麟公の家来が京都から踊り子を招き、「三つ拍子」という踊りを踊らせたのが始まりとされております。その優雅で格調高く、壮麗な踊りは、市民や観光客など多くの方々を魅了し、460 年余りの長い歴史の中で脈々と踊り続けられてきました。昭和 61 年には国の無形民俗文化財に選択され、今や鶴崎踊は郷土を代表する伝統文化として、確固たる地位を築いており、積み重ねてこられた歴史の重みを強く感じております。

皆様方におかれましてはこの度の、創設 100 周年を一つの節目として、今後とも、長い歴史と伝統に培われた鶴崎踊を守り育てていただくとともに、踊りを通して地域づくりや人づくりに一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、鶴崎おどり保存会のますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

鶴崎おどり保存会創設100周年記念特別表彰

(表彰基準)

郷土の伝統芸能である鶴崎踊の振興に貢献し、その功績が顕著と認められるもの

個人の部

佐々木 博 三	鶴崎おどり保存会顧問 (前保存会副会長)
船 木 顕 司	鶴崎おどり保存会副会長
三 代 治 人	大分市伝統芸能伝承師 (保存会副会長、研修部長)
三 浦 通 子	大分市伝統芸能伝承師
小 野 信 江	大分市伝統芸能伝承師
山 根 絹 子	大分市伝統芸能伝承師
宮 田 豊 子	大分市伝統芸能伝承師
益 田 広 美	鶴崎おどり保存会研修部副部長兼代表幹事
河 室 薫	鶴崎おどり保存会研修部幹事
(故) 池 永 善 人	元鶴崎おどり保存会顧問 (元保存会副会長、元研修部長)

以上 10 名

団体の部

大分商工会議所
株式会社大分銀行 鶴崎支店
鶴崎海陸運輸 株式会社
日本製鉄 株式会社 九州製鉄所 大分地区
王子マテリア 株式会社 大分工場
株式会社ジャパンセミコンダクター 大分事業所
ENEOS 株式会社 大分製油所
大分石油化学コンビナート
住友化学 株式会社 大分工場
山忠商店 株式会社
株式会社大分グランマ

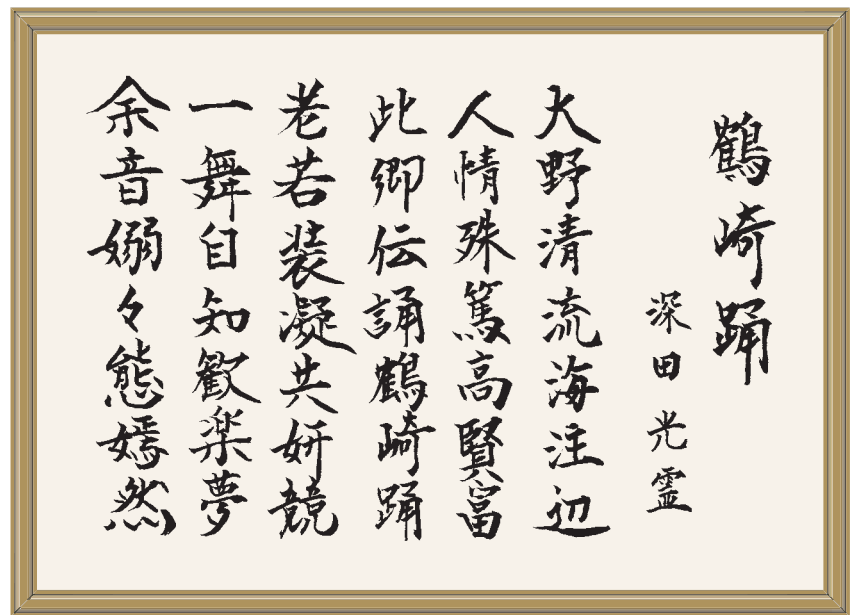
以上 11 社



祝吟

鶴崎踊 つる さき おどり
 大野の清流海に注ぐ辺 おおの せいのうみ そそ ほとり
 人情殊に篤くして高賢に富む にんじょうこと あつ こうけん と
 此の郷伝誦の鶴崎踊 この まちでんしゅう つるさきおどり
 老若装いを凝らして共に妍を競う らうにやくそお こ けん きそ
 一舞自ら知る歓楽の夢 いちぶおのすか し かんらく ゆめ
 余音嫋々として態嫋然 よいんじょうじょう そうたえんぜん

深田光霊 ふかた こう れい



伝統芸能交流会のルーツ

地域の保存会が、毎年一堂に会して競演をする。恒例となったこの交流会は、平成17年10月22日鶴崎おどり保存会の提唱で始まりました。第1回は豊後高田市昭和の町で、草地踊りと鶴崎踊との競演でした。以降津久見の津久見扇子踊り、佐賀関の関の鯛つりおどりが加わり4保存会となりました。それぞれ当番保存会の持ち回りで今年で19年になります。今年は保存会創設100周年を記念して鶴崎おどり保存会が当番をさせていただき、本日「草地おどり」「津久見扇子踊り」「関の鯛つりおどり」の保存会の皆様方をお迎え致しました。これからも伝統芸能交流会を通して、大切なふるさとの財産の保存、育成、継承に努めてまいります。



(豊後高田市昭和の町)

伝統芸能交流会



草地おどり（豊後高田市）

江戸時代、豊後高田市草地地区で始まった踊り。今から約300年前、徳川吉宗公の時代、農民に簡素な生活様式を奨励された折、この地の農民は踊りを始め、草地おどりが誕生した。4つの踊りで構成されており、その変化が楽しい。

今年の3月にはハワイホノルルフェスティバルに参加して来た。

津久見扇子踊り

今から約450年前、戦国時代の武士や農民への供養の願いを込め、京舞の流れをくむ扇子踊りを創設したと言われている。

扇子を回し翳しながら、弓に見立て、合せ鏡に見立て、勝利の祝いの所作を表し美しい流れを見せる。毎年8月下旬に津久見扇子踊り大会が開催される。



関の鯛つりおどり

佐賀関地区に伝わる労働歌。関の漁師たちがゆっくりと鯛釣舟の轆を押しながら歌われていた唄。その唄に関の一本釣り漁を表現した振り付けが加わり現在の関の鯛つり踊りがある。

首にかけたタオルを轆にしたり、釣り竿にしたり。速吸の瀬戸と呼ばれるここの流れは、関アジ、関サバで有名だが、昔は佐賀関言えば鯛であった。



鶴崎踊

踊り継がれて460有余年、遠く永禄3年国主大友宗麟の時代、京都より踊り子を招き踊らせた踊りが「鶴崎踊」の初めとされている。

テンポの早い左衛門と、優雅な猿丸太夫の二つの踊りがある。昭和61年に国の無形民俗文化財の選択を受けた。大正3年鶴崎おどり保存会を創設して、今年100周年を迎える。



鶴崎おどり保存会100年の歩み

西 暦	年 号	出 来 事	
1560頃	永禄3年頃	・戸次鑑連が京都より踊り子を招き、大友義鎮（宗麟）公の御前で「三つ拍子」（左衛門）を踊らせたのが鶴崎踊の始まりと言われている。	
1704～	宝永元年～	・当時流行していた伊勢参宮で伝えられた伊勢踊が、鶴崎の風土に溶け込み、踊られるようになったのが猿丸太夫と言われている。	
1914～	大正3年以降	・鶴崎踊と呼ばれるようになったのは、大正初期のころからである。	
1923	大正12年	5月22日	くにおみやがこ ・久邇宮良子女王殿下の御一家が来県の折、別府の致楽荘（和田豊治の別荘）において、大分県民芸代表として本場鶴崎踊をご覧にいれ、それが大変好評を得て以来、全国的に有名となった。
1924	大正13年	8月22日	・ 鶴崎おどり保存会の発会。 鶴崎おどり保存会の発会式を兼ね、良子女王殿下御台覧1周年記念踊り大会を鶴崎小学校校庭で行った。
1933	昭和8年	9月19日～25日	・東京三越本店において全九州名物特産並びに史跡名勝展が開かれ、大分県代表として披露した。
1944～ 1945	昭和19年～ 20年		・太平洋戦争のため、この二年間だけは鶴崎踊の会は中止された。
1946	昭和21年	8月	・別府市駐留の米軍に大分県代表芸能として招請され、米軍のキャンプにて披露し、日米親善に一役かった。（出演者は約2,000名）
1953	昭和28年	8月18日 11月1日	・鶴崎町議会で鶴崎おどり保存会の再建をはかり、19日再建準備会を開き規約を審議し、役員を選出して再建することとなる。 ・文部省主催全国郷土芸能大会（東京日本青年会館）に大分県代表として出演した。
1954	昭和29年	3月31日 5月	・久多羅木儀一郎著の「鶴崎踊沿革考」が、大分県教育委員会発行の「大分県文化財調査報告書」（第2集）で発表された。 ・竹田市における滝廉太郎音楽祭に招待され記念出演した。
1956	昭和31年		・大阪市大丸デパートで開催された大分県の観光と物産展で、披露した。
1958	昭和33年		・竹田市より招待され同市商店街で披露した。
1960	昭和35年	10月14日・15日	・第3回伊勢神宮奉納全日本民謡大会に九州代表として出演した。
1970	昭和45年	8月8日～10日 8月21日～23日	・大阪で開催された世界万国博覧会のお祭り広場で披露し、同協会会長より感謝状を受領した。 ・鶴崎踊を広く県外に宣伝するため宣伝隊を組織し、島根県出雲市・松江市・安来市などで宣伝した。
1971	昭和46年	9月24日・25日	・前年に続き宣伝隊を長崎市・佐世保市に派遣した。
1972	昭和47年	9月23日・24日	・高松市・高知市に宣伝隊を派遣した。

1973	昭和48年	8月18日・19日 10月2日～5日	・本場大会を国道197号線(商店街中央部)で開催した。 ・名古屋市名古屋公会堂で行われた名古屋祭りに招待され出演した。
1974	昭和49年	8月17日	・鶴崎おどり保存会は、「ふるさと大分」の振興事業として立木勝大分県知事より顕彰された。
1977	昭和52年	8月10日・11日 10月	・大阪市九条商店街の招請で九条おどり大会に出演した。 ・鶴崎駅前に「鶴崎おどりのブロンズ像」（等身大の女性2体＝工藤忠義氏作）を建設した。
1978	昭和53年	11月3日	・鶴崎おどり保存会が、佐藤益美大分市長より文化の日表彰を受けた。
1979	昭和54年	6月14日 11月5日～13日	・正調鶴崎おどり保存会が大分市教育委員会より、大分市指定無形民俗文化財に指定された。 ・大分市と姉妹都市のポルトガル国アベイロ市に、鶴崎おどり保存会員ら46名が民間友好親善使節団（疋田功団長）として訪問した。
1980	昭和55年	3月9日 5月23日 8月23日・24日 8月 11月3日	・「博多駅まつり」の郷土芸能共演大会に大分県代表として招待され披露した。 ・日本観光協会九州支部長竹田信人氏より、郷土の観光振興に貢献したことによって表彰された。 ・本場鶴崎踊大会初日に鶴崎出身の女優古手川裕子が踊りの輪に加わった。 ・鶴崎駅前に正調鶴崎おどり保存会無形民俗文化財指定記念碑（常木新二作）を立てた。 ・正調鶴崎おどり保存会が大分合同新聞文化賞特別功労賞を受賞した。
1981	昭和56年	3月31日 5月12日 7月 9月10日・11日 10月1日～4日 10月15日・16日 10月17日・18日	・鶴崎踊が大分県選択無形文化財となった。 ・正調鶴崎おどりが大分市指定無形民俗文化財に指定されたことを記念して、鶴崎公園グラウンドにホルトの木を植樹し、記念碑を建設した。（寄贈者疋田功正調鶴崎おどり保存会顧問） ・第1回「ミス鶴崎おどり」10名を選定した。（以降平成13年まで実施） ・小野今朝雄保存会長を団長として、一行26名が大分市の空港姉妹都市帯広市を表敬訪問した。 ・舞台劇「豊国春秋記」（榎本慈民原作、郷土のキリシタン大名大友宗麟公を主人公にした歴史ドラマ）に特別出演した。 ・第24回伊勢神宮奉納全日本民謡大会に出演した。 ・R K B 毎日放送開局30周年記念行事九州音楽時代「九州をうたう」に大分県代表として出演した。
1982	昭和57年	4月28日・29日 6月 7月 10月1日～11日	・ふくおか'82大博覧会に特別出演した。 ・正調鶴崎おどり保存会では大分市吉野の豊後竹人形吉田久氏に鶴崎おどり竹人形の製作を依頼した。 ・鶴崎踊歌詞募集 ・ブラジル大分県人会創立30周年記念大分県慶祝親善使節としてブラジル訪問。鶴崎踊コースは小野今朝雄保存会長を団長として36名が参加した。このとき正調鶴崎おどりブラジル支部（音成次男支部長）が結成されたことは、世界にはばたく鶴崎踊りを一層躍進させた。

1982	昭和57年	11月3日	・（文化の日）正調鶴崎おどり保存会が永年にわたり郷土芸能の育成、発展に貢献したことにより県表彰（ふるさと振興の部）を受けた。 ・カセットテープ1,000個を製作した。 ・ビデオテープを製作した。 ・福岡県博多の人間国宝博多人形師西頭哲三郎氏に、鶴崎おどり人形の製作を昨年依頼していたが、本年完成した。
1984	昭和59年	1月28日～31日 8月23日～25日 11月21日～23日	・沖縄県名護市を親善訪問した。 ・鶴崎踊のルーツを探すNHK大分の「九州スペシャル」の番組に協力。得丸隆吉保存会副会長はじめ男女会員6名と加藤正人県民謡主任調査員及びNHK大分放送関係者が、香川県小豆郡内海町安田おどりを訪問した。猿丸太夫と安田おどりの「扇の手」の旋律や動作がよく似ていることを確認し、鶴崎踊と同じようなルーツではないかと思われ、今後お互いに調査研究交換することを約した。 ・小野今朝雄保存会会長はじめミス鶴崎おどり10名を含む一行28名が、総理大臣官邸表敬訪問を実施した。
1985	昭和60年	6月1日 10月15日	・武漢市婦人訪日代表歓迎式に招待出演した。 ・2年数ヶ月をかけた「鶴崎おどり沿革史」が発刊の運びとなった。 ・民俗芸能文化連盟（東京都）の鶴崎踊練習会に研修部員15名が指導を行った。
1986	昭和61年	4月17日 6月13日 12月17日	・郷土の偉人福沢諭吉の生誕150年を記念して、中津大博覧会（'86豊のくにテクノピ）が開催され、お祭り広場特設ステージにおいて披露した。 ・正調鶴崎おどり保存会ブラジル支部の音成氏他6名来県。小野今朝雄保存会会長以下と懇談会を催した。 ・鶴崎踊テレホンカードを製作した。 ・記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として国の選択を受ける。
1987	昭和62年	6月5日 8月20日 8月22日 10月13日～19日	・会則の改正「鶴崎おどり」を「鶴崎踊」に「正調鶴崎おどり保存会」を「鶴崎おどり保存会」に改めた。 ・関西テレビ「土曜大好き！830」“歌こころ旅こころ”のコーナーでレポーターの小林幸子とともに、法心寺において町内会の子供たち並びに研修部囃子方が出演した。 ・本場鶴崎踊大会が、グラウンドコンディション不良で中止となったため、「武漢市・帯広市歓迎鶴崎踊大会」を鶴崎小学校体育館で開催した。 ・大分・武漢友好都市締結8周年記念友好訪問団として、小野今朝雄保存会会長を団長に一行93名が、中国友好訪問した。
1988	昭和63年	1月5日	・国選択無形民俗文化財記念碑の除幕式、並びに記念植樹（菩提樹）を小野今朝雄保存会会長以下126名出席のもと執り行った。
1990	平成2年	7月5日～10日 10月27日・28日	・ハワイ親善訪問をし、在留邦人との親善を図った。 ・愛媛県松山市で開かれた「第5回国民文化祭・愛媛90」に出演した。

1993	平成5年	6月28日～ 7月7日 9月16日～18日	・日本・ポルトガル友好450周年記念事業のひとつとして、保存会並びに一般市民から募集し、使節団を結成。疋田功顧問、団長小野今朝雄以下33名で、アペイロ市を親善訪問した。 ・東京国立劇場において、平成5年度芸術祭国際公演・第17回日本民謡祭「アジア・太平洋うたとおどりの祭典」に出演。
1994	平成6年	7月24日 7月31日 9月10日 10月16日	・熊本城内加藤神社の「第20回清正公まつり」に招待出演し、境内および商店街で披露した。 ・蒲江町中央公民館において「蒲江町盆踊りフェスタ」が開催され、町内浦々の盆踊りが紹介される中、招待出演した。 ・院内町文化交流ホールにおいて、「平成6年度東院内地区郷土芸能交流大会」が開かれ、招待出演した。 ・竹田市岡城・西の丸において「岡藩7万石まつり」が開かれ、招待出演した。
1995	平成7年	5月27日～29日	・（勸）地域伝統芸能活用センター主催の「第3回地域伝統芸能フェスティバル香川」が香川県高松市で開催され出演した。
1996	平成8年	8月3日	・大分市の「ザ・活き粋大分'96」まちづくり活性化協力賞（ひとの部）で、保存会研修部が表彰された。 ・大分市の要請により、北九州市「わっしょい百万夏祭り」会場で、ミス鶴崎おどり5名により、鶴崎踊の観光宣伝を行った。（以後平成13年まで）
1997	平成9年	11月3日 11月16日～20日	・大分市文化の日表彰において、研修部渡辺健治氏が表彰を受けた。 ・新市場開拓推進委員会（会長は大分県商工観光労働部長永松博文）の依頼により、野村保存会会長他23名が、マレーシアにおける物産観光展のオープニングセレモニーに出演した。
1998	平成10年	2月8日 7月 8月3日 8月19日 8月29日 9月12日・13日 10月18日 10月23日	・鶴崎臨海ライオンズクラブ20周年記念に、鶴崎踊衣装新調助成金として50万円の寄付を受けた。 ・音開き開催。鶴崎踊を普及宣伝するとともに、平素の練習の成果を発揮し、本場鶴崎踊大会が盛大に開催できるよう、保存会会長以下役員、研修部員等で鶴崎大神宮に祈願した。（以後、毎年実施） ・鶴崎踊に対する意見交換会を開催し、各界から貴重な意見を得た。 ・多年にわたり、ムッチャン平和祭の夕べに協力したことに対して、木下敬之助大分市長及びムッチャン平和祭実行委員長橋本量太郎氏より感謝状を受けた。 ・第13回国民文化祭・おおいた98「アジア文化交流の夕べ」に出演した。 ・神話の里フェスティバル高千穂町推進委員会の依頼により「'98神話の里フェスティバル」の伝統芸能祭りに出演した。 ・第13回国民文化祭・おおいた98「南蛮文化フェスティバル」に出演した。 ・第13回国民文化祭大分市主催事業「邦楽の祭典」の交流会に出演した。

1999	平成11年	5月21日	・和歌山県田辺市において高円宮親王殿下ご臨席のもと、第7回地域伝統芸能全国フェスティバルが開催され、「地域伝統芸能大賞」を受賞した。
2000	平成12年	1月9日 2月6日 8月7日～11日	・第1回踊り初めを開催。2000年の節目を機に、更なる飛躍の年にしようと研修部が企画した。 ・玖珠町春日小学校体育館において、山浦川駅伝大会20周年記念事業に招待出演した。 ・北海道旭川市において「第8回地域伝統芸能フェスティバル」が開かれ、前年度受賞団体である鶴崎おどり保存会が招待出演した。
2001	平成13年	5月23日 6月15日 11月15日	・永年にわたり多額の寄付をいただき、鶴崎踊の保存育成に貢献したことにより、鶴崎海陸運輸㈱を特別表彰した。 ・司屋太鼓店釘宮司氏より鶴崎踊の保存育成のため、太鼓1基が寄贈された。 ・佐藤一郎氏より囃子方衣装作成のため53万5千円の寄付を受ける。
2002	平成14年	5月8日 5月31日 6月10日 8月1日～5日 8月11日・12日 9月29日 10月31日～11月3日	・各方面の鶴崎踊識者より、現在の鶴崎踊の諸問題について意見を伺い、より魅力あるものにし、更なる発展をするため、「鶴崎踊座談会」を開催。 ・21年間続き、鶴崎踊の普及宣伝に大きな成果を収めてきた「ミス鶴崎おどり」を応募者の減少及び寄付金の減少による資金不足により廃止することを決めた。 ・大分ピックアイで開催されたサッカーワールドカップ「ジュニア対ベルギー」戦試合開始直前に大分県を代表する伝統芸能として、世界に向けて披露した。 ・第26回ふるさと民謡シリーズ「宮崎県・大分県の唄と踊り」に大分県代表として出演。初めてショー形式で披露した。 ・本場鶴崎踊大会PRのため、大分駅で来県客を対象に街頭PR活動を初めて行った。 ・県民芸術文化祭「宗麟南蛮絵歌留多」に出演。 ・大分市姉妹都市帯広市にて「帯広市開拓120年市政施行70年記念式典」に招待。野村保存会会長以下25名で訪問。記念式典での踊り披露に続き、姉妹都市踊りの競演として、中国朝陽市歌舞団及び徳島市阿波踊と競演した。
2003	平成15年	2月10日 4月15日 8月23日・24日	・鶴崎臨海ライオンズクラブ結成25周年記念に、郷土文化保存育成事業助成金として50万円の寄付を受けた。 ・保存会の中核である研修部員の高齢化が進んでいることから、後継者育成事業を開始した。 ・本場鶴崎踊大会での初めての取り組みとして、踊り舞台を設け、研修部をはじめ、前年度総合上位町内及び優秀企業団体が踊りを披露した。

2004	平成16年	3月16日 5月22日 8月21日・22日	・大友宗麟の重臣立花道雪（戸次鑑連）ゆかりの地を訪ねる県企画番組「赤瀬川隼と歩く大分・福岡交流の旅」のロケ。直木賞作家赤瀬川隼さんと旧柳河藩主立花道雪の子孫立花千月花さんが鶴崎踊を見学。左衛門を実演し、立花さんへ踊り指導も行った。 ・鶴崎おどり保存会発会80周年式典を執り行う。 ・80周年記念大会として本場鶴崎踊大会を開催した。
2005	平成17年	6月30日 8月20日 10月22日 11月20日	・（社）ツーリズム大分より「大分県ツーリズム功労者表彰」を受けた。 ・本場大会1日目が、雨天により中止となった。 ・豊後高田市の昭和ロマン蔵で開催された「鶴崎踊・草地おどり文化交流記念公演」に出演した。 ・「佐賀関ふるさとまつり」に招待され出演した。
2006	平成18年	6月20日 8月19日・20日 10月9日 10月28日 11月6日	・地元主導の新しい実行委員会が発足した。 ・新体制での本場大会を開催した。 ・別府中山別荘(致楽荘)の取り壊しに際し、惜別の踊りを踊った。 ・津久見市郷土芸能交流会に出演した。 ・中国武漢市国際交流で武漢市にて披露した。
2007	平成19年	5月25日 7月21日 10月18日・19日 10月26日～28日 10月28日 12月2日	・国体リハーサル大会(なぎなた)のため別府湾ロイヤルホテルで披露した。 ・2007うえのまつりパレードで、鶴崎踊を披露した。 ・NHK大分放送局主催で三重エイトピアで開催された「それゆけ民謡」に出演した。 ・熊本城築城400年祭記念イベントに出演した。 ・コア山国で開催された「万葉のふるさとまつり」に出演した。 ・別府市北浜通りで開催された「別府宵酔女まつり」に出演した。
2008	平成20年	5月 5月24日・25日 8月17日 10月12日 10月18日・19日	・統一衣装、鶴崎踊着物を製作した。 ・東京プリンスホテルで開催された在京大分県人会80周年記念祝賀会で披露した。 ・豊後高田市で草地踊保存会40周年記念特別事業「おおいたの伝統踊り2008in豊後高田」に出演した。 ・第8回全国障害者スポーツ大会「ふれあい広場」のため大洲運動公園で披露した。 ・熊本城で開催された「秋のくまもとお城まつり」で披露した。
2009	平成21年	4月19日 8月8日～10日 10月11日・12日 11月8日	・豊前中津の音頭大会に出演した。 ・よさこい祭り前夜祭出演。研修部員と町内推薦の踊り子計26名、役員4名の合計30名で臨んだが、雷雨のため中止となり祈願祭後に披露した。 ・「秋のくまもとお城まつり」に出演した。 ・「佐賀関ふるさとまつり」に出演した。

2010	平成22年	4月13日	・ 大分東洋ホテルで開催された平成22年度中核市市議会議長会議で披露した。
		10月2日	・ 鶴崎ホテルで開催された大分鶴崎高校創立100周年記念祝賀会で披露した。
		10月24日	・ 本耶馬溪町青の洞門で開催された「禅海ふるさと秋祭り」で披露した。
		11月10日	・ 別府ホテル白菊で開催された第49回商業界ペリカンクラブ大分大会で披露した。
		11月21日	・ 大分東洋ホテルで開催された宗家生誕百年記念全国吟剣詩舞道大会祝賀会で披露した。
2011	平成23年	9月24日	・ 豊後高田市で開催された「踊りの祭典in昭和の町」で披露した。
		10月23日	・ 日田市民文化会館で開催された「民謡邦楽の秋宴」に出演した。
		10月28日	・ 大分文化会館で開催された大分市誕生100年記念式典で披露した。
		11月6日	・ 「佐賀関ふるさとまつり」に出演した。
2012	平成24年	10月14日	・ 鶴崎踊練習用DVDを製作、販売開始した。
		10月18日	・ 玖珠町メルサンホールで開催された九州地区民俗芸能大会に出演した。
		11月3日	・ 別府ピーコンプラザで開催された第81回全国民生委員児童委員大会で披露した。
2013	平成25年	10月18日	・ 「佐賀関ふるさとまつり」に出演した。
		1月6日	・ 「踊り初め」を保存会行事として行うこととなった。
		2月23日～25日	・ 東京渋谷NHKホールで開催された「第13回地域伝統芸能まつり」に出演した。
		8月3日	・ 4社中による大分県郷土芸能交流会をOBS納涼広場で開催。
		8月24日・25日	・ 本場鶴崎踊大会が、雨天により両日とも中止された。当日は、ダイドードリンコ提供の「日本の祭り」収録のため考古学者の吉村作治氏がお見えであった。初日が雨で開会式直前で中止されたため、急遽、来場者のために鶴崎公民館の集会室で、地元町内会の踊りを披露した。
2014	平成26年	9月16日	・ 本場大会などの模様が、OBS放送「日本の祭り」で放送された。
		11月11日	・ 豊の国がぼす大使会発足20周年記念パーティーに出演した。
		4月5日	・ 大分市内6駅100周年記念式典が鶴崎駅前にて開催され、出演した。
		5月31日	・ 鶴崎おどり保存会発会90周年記念式典を執り行う。
		8月30日	・ 奥豊後の踊りを楽しむ夕べに出席した。
2015	平成27年	10月26日	・ 津久見市ふるさと振興祭にて4社中伝統芸能交流会を開催した。
		7月	・ 和光大学 長尾氏より「観光と女性」について研究をする中で、鶴崎踊について取材を受けた。
			なお、2017年9月19日に刊行された「女性とツーリズム」で取り扱われた。
		8月16日	・ 豊後高田市にて4社中伝統芸能交流会を開催した。
2016	平成28年	5月23日	・ 「大友宗麟公命日祭」を行うこととなり第1回目の開催となった。
		10月30日	・ 佐賀関支所にて4社中伝統芸能交流会を開催した。

2017	平成29年	10月14日 12月	・宗麟公まつりにて鶴崎の担当年として4社中伝統芸能交流会を開催した。 ・大分県立鶴崎工業高等学校の生徒にデザイン案を作成依頼のもと、会員章（ピンバッジ）を作製した。
2018	平成30年	9月 9月16日 10月14日 10月27日	・招待出演時に流す囃子音源の収録を行った。 ・NHK製作番組「民謡魂・ふるさとの唄」に出演し、鶴崎踊を披露した。 ・第33回国民文化祭おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭が開催され、別府市での「ニッポンの祭り唄・盆踊り全国大会」に出演した。 ・津久見市ふるさと振興祭にて4社中伝統芸能交流会を開催した。
2019	平成31年 （令和元年）	8月17日 8月18日 8月24日・25日 10月18日 11月17日	・大分トリニータホームゲーム開催日に、昭和電工ドームでの関連イベント「昭和電工MATCH&おんせん県おおいた祭り」に出演した。 ・豊後高田市にて4社中伝統芸能交流会を開催した。 ・本場鶴崎踊大会が、初日が雨天により中止になった。 ・ラグビーワールドカップカップ関連イベント「Enjoy Oita Welcome Fair」に出演した。 ・宮崎県都城市総合文化ホールで開催された九州地区民俗芸能大会に出演した。
2020	令和2年	4月1日～ 11月9日 1月27日	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本場鶴崎踊大会をはじめ、予定していた保存会行事を中止した。 ・松岡小学校の児童を対象に鶴崎踊教室を実施した。 ・三代治人氏（研修部長）が大分市伝統芸能伝承師に認定された。
2021	令和3年	4月1日～ 11月23日 11月25日	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本場鶴崎踊大会をはじめ、予定していた保存会行事を中止した。 ・第1回おおいた民謡の祭典に出演した。 ・別保小学校の児童を対象に鶴崎踊教室を実施した。
2022	令和4年	8月20日 10月25日、31日 11月1日	・3年ぶりに本場鶴崎踊大会を縮小して1日のみ開催した。 ・大分支援学校の生徒を対象に鶴崎踊教室を実施した。
2023	令和5年	4月21日 7月26日 8月19日 10月29日	・踊り子4名（三浦通子氏、小野信江氏、山根絹子氏、宮田豊子氏）が大分市伝統芸能伝承師に認定された。 ・令和6年度に保存会創設100周年を迎えるにあたり、記念事業の検討部会を立ち上げた。 ・本場鶴崎踊大会を49年ぶりに国道197号（鶴崎）で開催した。 ・佐賀県にて4社中伝統芸能交流会を4年ぶりに開催した。
2024	令和6年	1月 1月24日 3月	・「本場鶴崎踊大会」唄コンクール及び歌詞募集。 ・豊の国かぼす大使会発足30周年記念パーティーに出演した。 ・鶴崎地区公民館に鶴崎踊展示ブース設置。

鶴崎おどり保存会の主な活動

【研修部】 毎月5日、15日、25日に例会を実施



【大友宗麟公命日祭】 5月23日（平成27年度から開催）



【初心者・中級者への講習会】 毎年6月5日、15日、25日



ね びら
【音開き】 毎年7月中旬（大会1ヵ月前）



【地域の小・中・高への踊り指導】 鶴崎踊教室



【本場鶴崎踊大会】 毎年お盆過ぎの土、日に開催



【各種招待出演】 年間を通じて各種招待に出演



【^そ踊り初め】 毎年1月10日頃





心の糧「鶴崎踊」

編集委員に選ばれ、当初は保存会創設 100 周年にあたり、「鶴崎踊沿革史」に準ずるようなものをと想像して、心引きしめる重責を感じていた。しかし、実は 90 年史の冊子にあと 10 年間のことを記録に留める^{てい}体のこととあって、少し気が楽になった反面、この 10 年間の資料集めや、原稿依頼に取り組んだ。こうしてわずか 3 カ月でこの冊子が出来上がった。

鶴崎おどり保存会発足から 100 年、そのほぼ殆んどのことを知る人たち（現 80 ～ 90 歳代）が現在、御存命でおられる。また、100 周年記念式典・鶴崎踊の唄コンクール・歌詞募集の様子などを記録に残すためにも、本当の意味での「百年誌」を是非この 1 ～ 2 年のうちに編纂したいものである。そして保存会創設の基となった、皇室御台覧のことは言いつぎ、語りつぎゆかねばと心から思うものである。



